

昭和三十三年  
一月二十三日  
招集

昭和三十三年一月二十三日招集  
第一面市議會臨時會議錄





昭和三十四年館山市議令才一回臨時令々議録

「昭和三十四年一月二十三日午後二時館山市議令才一回臨時令々館山市役所分館令議室に招集」

「出席議員(数)(三十二名)」

一	番	石井	潔	二	番	望月	暉作
三	番	小沢	太助	四	番	脇田	順一
六	番	山本	昇	七	番	遠山	ヨネ子
八	番	田村	喜兵衛	九	番	後藤	ゆき
一〇	番	山口	房治	一一	番	佐久間	為次郎
一二	番	小沢	光義	一三	番	中村	良五
一四	番	大野	清五郎	一五	番	磯辺	周雄
一六	番	鈴木	孝	一七	番	小沢	恵太郎
一八	番	鈴木	市藏	一九	番	小谷	無達
二〇	番	田中	禄郎	二一	番	吉田	勇治郎



館山市議会

二二番 金木久一

二三番 飯田義男

二四番 秋山万次

二六番 田中忠藏

二七番 黒川佐太郎

二九番 松本藤太郎

三〇番 安西政治

三一番 山口康

三二番 嶋貫壮作

三三番 可世木芳藏

三四番 高橋文治

三五番 嶋田繁

〔欠席議員数〕(一名)

二五番 萩生田七郎

〔法才二百二十一条による出席説明員〕

市長 田村利男

助役 小出武男

総務課長 完戸貴

建設課長 新井重助

保険課長 唐沢貞太郎



秘書課長

山谷潤昶

監査委員

関 武夫

「本議会の事務局長、書記および職員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

職員

山口晴之

「昭和三十四年第一回館山市議会臨時今議事日程

昭和三十三年<sup>三</sup>一月二十三日午後二時開議

日程才一

報告才一号

昭和三十三年<sup>三</sup>度一月例月検査報告

日程才二

請願書

（沼地已排水路改修方について）

日程才三

陳情書

（自動車々体検査場設置援助方について）

日程才四

臨時出納検査立合議員の互選

日程才五

議案才一号

国民健康保険法の刑定に伴う国民健康保険事業の応急措置に關する条例制定に



ついて

日程才大 議案才ニ号 市庁舎建築設計契約の締結について、  
一 本日の今議に付いた事件、

議事日程に同じ、

議長(石井 潔君) 本日の出席議員数三十名これより昭

和三十四年才一回市議今臨時今を開今いたります。

議長(石井 潔君) 本臨時今の議案説明の爲田村市市長

小出助役、完戸課長、新井課長、唐沢課長、山谷

課長、関監査委員以上の出席を求めまういざ

報告いたります。

議長(石井 潔君) ついで議案を配布マセます。

(議案配布)

議長(石井 潔君) ついで今議録署名員の決定を行ひ



ます。

お諮りいたします。署名員の決定は従来例に従いまして議長の指名により決定する事に  
ご異議ございませんか。

（異議ないと呼ぶ者あり）

議長（石井 潔 君）ご異議ないと認めます。

よって十三番議員 甲村良五君十七番議員 小沢  
恵太郎君以上が両名君に決定しますに  
ご異議  
ございませんか。

（異議ないと呼ぶ者あり）

議長（石井 潔 君）ご異議ないと認めます。

よって左様決定いたします。

議長（石井 潔 君）ついで今期の決定を行います。

本臨時会の今期につきましては議会運営協議



今の意見は本日一日ということでありす。

お諮りいたします。今期は議今運営協議今の意見の通り一日と決定するところを異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 異議なしと認めます。

よって今期は一日と決定いたします。

議長(石井潔君) 本日の議事はお手許に配布の日程表により逐次上程いたします。

議長(石井潔君) 日程才一報告才一号を上程いたします。

(書 記 朗 読)

報告才一号 昭和三十三年一月例月検査報告。

(岡 武 天 君 登 壇)



。監査委員(関 武天君)一月十三日に実施いたしまして  
例月検査の結果につきまゝいで説明申上げま  
す。

まず一般会計におきまして市税において二千  
四百六十万円余が入つております。この内訳  
は市民税が約四百三十万円 固定資産税が約千  
六百八十万円 十一月分のタバコ消費税として百  
四十一万八千円をうず、電気がス税が約百万円  
都市計画税が約八十七万円等が主なるものであ  
ります。

市税の収入未済額において五千五百六十万円余  
り計上されておりますがその内納期のない  
ものが約千三百四十万円あるのが差引まゝ、  
て正味の滞約額約三千二百二十万円でございます。



す。

税外支入にあきまゝにて千三百五十万円余り入つておられますが、この内、国庫支出金として受入れられまゝ、又、わが約八百五十万円、使用料手数料の、おバ約百五十万円、競輪収入として五十万円入つております。これは千葉の十一月分の競輪でございます。

支出にあきまゝにて三千八百丁余万円出ておりますが、十二月はご承知の通り、期末手当等の支出が、あつたので、数字は多くなつております。収入支出差引をまゝにて二千三百三十七万九百五十円でありまゝ。この内、公益質屋の、おにハ十万円、流用されておりますので、金庫の現在高は二千二百五十七万九百五十円でございます。



次に特別会計に移ります。公益貨屋の会計  
です。収入支出と差引をまいて四十九万九千  
二百六十一万の赤字となっております。一般  
会計から八十万月流用しておりますので金庫  
の現在高は三十万七千三百三十九円でございます。  
貸付金の現在高は二百二十万二千六百二十五円  
であります。一般形貨屋が百四十四万七千二百二  
十円、富崎貨屋が七十五万五千五百五十円です。  
次に国民健康保険について甲上げます。

保険料において三百六十八万六千余り入って  
あります。保険料収入未済額が千七百七万  
五千百五十九円となっております。この内  
納期のこないものが約八百二十万円余りあ  
りますので差引をの正味の満納額は八百



七十四万九千五百円でございます。

その他の収入にありまして事業勘定の二百九十  
十三万四千九百円入つてあります。これは国庫  
から支出されたものであります。給付費の補  
助金に二百十四万五千円、事務費の補助金に  
七十五万六千円でございます。収入支出差引  
をまゝして十四万二千七百十六円の残金があり  
ましてこれに市金庫の現在高を加へてあります。  
以上で報告にござります。説明を終り  
ます。

議長（石井 潔君）報告案件につきまして質疑  
等あります。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（石井 潔君）が異議ないと認めます。



よって報告案件承認と認めます。

議長（石井 潔君）ついで日程オニ請願書を上程いたします。

（書記朗読）

請願書 沼地区排水路改修方について

○九番（後藤ゆき君）この請願書につきまして紹介議員として後置並いかにこの後にはいかというところを説明申し上げます。

この下水道はちょうど柏崎の大黒屋から西の方へ相当の距離がございます。その下水の水と沼の栄泉寺の上から流れる水べかじやという八百屋の合流するので、すば以前に陳情があったと思えますが、柏崎の水を沼区へ流さないで海岸へ



流してもらいたいということでありまして、それとそれと造る為に大きな土管まで運んでございますが、現状としては土管だけ来て工事は全然や、ていない。従って柏崎の下水道の水と沼田の下水が合流して大井戸という区の新戸と一緒に、て流れ、みますので雨量の多い時などはその水が、おやの八百屋の中まで流れこんで困、てある。そして大井戸の水と十軒、保、てい、ると思、います。す、その水も合流して、お風呂屋の裏を通、て山は、まんの裏の、お、廻り、その水が、い、ろ、く、汚水が交、て、ありますので、時によれば温かくて煙が出ていますと、おありある時は田へ入り稲が、お、れ、て全然収穫のない場合もありまして、この近



辺の田はほとんど出来過ぎとい、まゝようか  
駄目になる時が大いのでございます。又その  
水が非常にくさいので近辺の人達は困、てい  
るのびございます。せめてあの水が田に影  
響のないようぜの下水に流れるよう望んで  
いるのでございます。区民とい、まゝいて  
はどうしてもすて、おけなくな、てまゝい、  
つでこ、に陳情いた、つでどうぞこの旨  
お聞、下、れたくお願、申、上げる次第で  
ござ、います。

○九番(松本藤太郎君)とい、まゝ九番議員の陳情に  
もび、ござ、います。た、この問題は一人沼地区はか  
り、びなく全地区に亘り少、雨が降ると下水  
は溢、れ又田の中へ流、れて非常に困、てい、る



地已が多いのでございます。この件につきましては、  
 しては担当の建設課長さんにも日頃骨を折って  
 いらっやる事とは存じますが、ぜひこの陳  
 情が出たのでございまして、これらも合せて  
 しめるべく処置願いたいゆえにこの陳情書は  
 採択し<sup>厚意</sup>ていたべくよう賛成いたします。

○二番望月暉作君 本陳情書については二九番議員  
 の申された通り他にもこのさうな処がなくて  
 んあると思ひますのでぜひ早急に善処され  
 るよう希望いたします。本陳情書に賛成い  
 いたします。(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井 潔君) 本陳情書採択するに於て異議あ  
 りませんか。

○異議ないものと認めます。



よ、て本請願書は採択されました。  
採択された請願書はそれぞれ市長の手許  
に送付いたします。

議長（石井 潔君）陳情書を上程いたします。

（書 記 朗 読）

陳情書 自動車々体検査場設置援助方について  
。ニ 三 番（飯田義男君）紹介議員の中では私が一番  
関係が深いので私から説明申し上げます。  
なお足りないところは補足を願いたいと思  
います。

陳情書にも書いてあります通り自動車の  
検査の状況は本検査場の千葉と一同等年  
は出張検査が出来ます。



隔年おまに出張検査をやる事になつてあります。ところが最近他の検査では非常に乗の完全な状態におく事が出来ないということとで遂次~~本~~検査のみでやつていこうということをささいてあります。たま／＼昨年勝浦、銚子、野田ミヶ所です。この検査場が出来てゐるんぢやないまして本来ならばこの検査場は陸運省の管轄ぢやないまして陸運省が建てるのが建前でありまして、が現在実情としては各県に一ヶ所の検査場をおく、もし遠隔の地であるならばその市の人達の本検査場と同じ設備を持つならば出張検査をしてやつてもよろしいということでありす。既に先進地においては市の援



助をうけて検査場をつくり千葉までいかな  
くても良いようになつてあります。返り  
に館山へ検査場をつくりました時にはどの  
位利益があるかと申しますと現在検査を  
受ける車は安房郡市で二千輦あります。  
その二千輦が千葉へゆかず館山で検査を  
受けた場合は一台について人件費燃料等を  
合せますと二千二百円ないし三千五百円もか  
かるのぢぢぢいます。そうしますと一年に  
して六七百万円の金も浮く。なお消防車  
等におきまして千葉へ検査に出た後火事  
でもありまして大変な事となるのぢす。  
若し館山で検査をしてある場合にはす  
ぐらにも出られるわけぢぢぢいます。



いろいろ考えてみましても、館山に検査場をつくるということは市にとってプラスになり、当然必要でもあるのでございます。

今までいろいろ考えてはおりました。が、なかなか思うように進まなかつたので、すが最近漸く委員会も出来着々活動してあるわけでございます。もちろんこの検査上は我々業者が主になつてやるものであつても、我々の手でやろうと決心はしております。が、足りないところは、市より何分の補助をお願いしたいので、この点ご理解を願ひまして、何かよろしくご探検下さるようお願い申し上げます。

○三番(小沢太助君) 私も紹介議員の一人ですが、この



陳情書にもあります通り比較的果の外側  
である拒離の遠いところの市に設置されて  
いる。従つて我々が館山市も房總の南端で  
あります見地から考えましても当然必西女  
と考えまして紹介議員となつた次才でござ  
います。何卒趣旨ご賢察の上ご採択下さ  
るようお願い申し上げます。

議長(石井 潔君) 本陳情書採択する事に付て異議  
ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君) 本陳情書は採択することに決定  
いたしました。

採択された陳情書は直ちに市長に送付いた  
します。



議長(石井 潔君) 日程才四臨時出納検査立合議員  
の互選を議題といたします。

なお甲上げます。立合議員の互選はご承知の  
通り甲合せ協定により抽選で決定して参り  
ました所、さうど今回が任期最後の立合に  
り、これまでまだ立合議員とならなかつた方が  
小沢太助君、脇田順一君、中村良五君、鈴木孝  
君、山口康君、以上の五名であります。

お諮りいたします。本立合議員の互選は諸  
般の手続を省略いたして、ただ今甲上げま  
した五名の方をもつて当選人といえます  
に、異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君) 異議なしと認めます。



よ、て二月行われす臨時出納検査の立会  
議員に小沢太助君、脇田順一君、中村良五  
君、鈴木孝君、山口康君の以上五名の議員  
と決定されました。

議長(石井 潔君) 日程才五議案才一号を上程いたし  
ます。

(書 記 朗 読)

議案才一号 国民健康保険法の制定に伴う国民健康保険事  
業の応急措置に因する条例制定について、

。保険課長(唐沢貞太郎君)本議案に対してご説明申上  
げます。

昨年十二月三十一日国令を通りました新国民健  
康保険法の施行に伴う応急的な措置をため



る条例でございます。一月一日新国民健康保険  
法が施行になりましたと同時にこの報告によ  
ります効果が表われてくるのであります。果  
の指導によりまして新条例が出来るまでの間  
応急的に新法に抵触する部分につきましては  
応急的な条例を設けてそれで仕事を進めてお  
いて載りたいということになります。本議案  
を提出した次でございす。内容について  
は簡単に説明申し上げます。

オニ条でございます。従来の旧条例によります  
館山市の被保険者の範囲、新法による被  
保険者と比較しますと若干の相違がある、な  
うでございます。

オニ条給付の範囲ですが新国民健康法により



ますとこれとこれを行わなければならぬとい  
うようにこゝにかいてございます。オ一項  
とオニ項については現在館山市では現在行っ  
ていなか、そのでございます。その為旧法を新  
法に切替える為の施行法というものが出てお  
りましてその施行法によりまして当分の間新  
法切替え以前の給付を行、ているところは応  
急処置によ、て当分のまゝでもよろしいと  
いう法<sup>律</sup>のございますので歯科診療における  
歯科補填と入院の際の給食と寝具設備は当分  
の間これを行わないというにいたのです。  
オニ条の被保険者の資格のございますけれども  
従来<sup>の</sup>の條例と新しく出来ました法と一番異  
なるのが生活保護関係の人なのでございます。



新しい法律によりますと生活保護の受けてい  
る人がその問題が出てから三ヶ月を空けてか  
ら国民健康保険被保険者から除けというの  
が今度の新法の考え方でございます。なお  
これにつきましては恒久的な措置法という  
ものが出てありましてこの新法切替の際に  
現在病気にかかっている人、たとえ新法で三  
ヶ月たつたうやめろといつてもその病気がな  
おるまじう間は旧法の例にならうてそれさ  
しなければならないというふうになつていろ  
うでございます。これは生活保護を受ける  
人もその他の保護を受ける人もそうなるの  
でございます。私の方の元の條例は生活保護  
法の生活保護も受ける人だけを従来除いてお



、たのであります。新しい法律によります  
とその他の人も一応原則として除けると  
いうことになりますが、当分の間、今病気に  
、っている人はようすを見ろということでは  
います。私の方としては元の条例をいかに  
して生活保護をうける人は受け、日から被保  
険者にしないというふうな応急措置を作っ  
たのでございます。えは時の施行法によりまし  
て認められるのです。

以上簡単です。説明を終らせていただきます。  
。六番（山本 昇 君）ちよつと疑問がありますので、三  
縷々お伺いしたいと思ひます。

第二條の<sup>資格</sup>年齢の問題であります。新しい  
わゆる範疇を甲上げますと、今課長さんの



が説明によりますと生活保護を受けている者に対するものと医療保護を受けている者と二つに分けたように私に聞き及ぶに聞かれました。聞いていふに分けてそうして医療保護を受けている者については依然として堅持する、続けていくものであつて、生活保護を受けている者に対しては三ヶ月間だけは見る。と聞き及ぶに聞かれました。聞いていふに聞かれました。

。保険課長(唐沢貞太郎君)ちよつと私の説明が足らなかつたので聞いています。旧法の一月一日以前の条例には生活保護法の内生活保障を受けるものだけが被保険者としていないというふうになつておつたわけでありました。ところが新法ではこ



れは三ヶ月経つたら除くという説明でござい  
ますが若干どうも考え方が違ふんじゃない  
かというふうに考えておりますが現在の  
ところは生活保護法の保護を受けられるもの  
というために生活保護法の関係が全部含  
まれるというふうに解釈しております。  
生活保護法の中には生活扶助とそれから  
医療扶助とそれから教育扶助と住宅扶助  
等ございます。それがそれぞれ一つずつに  
ものは国民健康保険の被保険者から除け  
るということですよ。

○大番山本 昇 君 次に三条の問題であります。が  
要するに特別の條例例を設ければ歯科診療  
における補綴、入院の際の給食及び寝具設



備については療養の給付は行わない。まよ  
 うなど説明を聞いておりますが法第三十六  
 条第一項の規定によりますとこういう、まよ  
 べての法律のものをやらなければいけない  
 というような規定がある。しかしながらそ  
 れについては臨時にこうした条例を制定  
 すれば従来のまま、で当分の間これをやら  
 なくともいい。こういうたようなことでこ  
 の条例を作る、まよいうな説明であります  
 しかしながら法律を作ったということは一  
 要するに一般のこういう受給者に対する  
 便宜をオーに考えて作ったのだらうと私は解  
 釈します。せ、かくでまた法律に對してなせ  
 るうい、たものも当分やらなくてもいい、ん



だ、臨時のこうした条例を作ればこうい  
ふものもやうなくていいんだという考えは私  
はどうも納得がいかないのです。がどうい  
う意味でそうなんですか。

○保険課長(唐沢貞太郎君) 結局当分の間、解説です。  
が三十九年三月三十一日までの考えです。  
この法律の趣旨が今の法律を全部出した  
けれども全国でや、ていないというところも  
ございます。そのためどうしても三十九年  
三月三十一日までは全国で国民皆保険を  
やらなければいけないというふうに義務づ  
けてあるわけですよ。ですから当然この条例を  
設ける設けないはあくまでも任意として設  
けなければやらない。設ければやなくても



い、というようになりますと変でございますが  
現在の財政状況ではいかんともしびたいのでござ  
います。まあ当分の間やらないようにしたい  
というふうに考えております。

○大養山本 昇君 ただいまのご説明によります

と昭和三十一年になると全国でこの国民皆  
保険をやらなければならぬとそうなれば新  
しい法律に基いて全国の特別歯科診療、あ  
るいは入院診療、云々ということも全部給  
付しなければならぬけれどもそれまでは  
一応今ま、やってきたいわゆる国民健康保  
険でもこうした暫定的な要領を作れば給  
付しなくてもいい。しなくてもいい、というこ  
とは要するにただいま概念的なあれがあるけ



ども、しからば三十六年以後全面的に実施しなければならなくなつた場合にもこの概念的な処置に對し、して何の國家に對して保障というやうなものがあるかどうか。

○保險課長(唐沢貞太郎君)財政の問題ですと現在國  
が、この法律の施行と同時に早急して九月ま  
でやうねばならぬ問題ですが療養給付は従  
来二割をくれると言ひながら實際には町村  
によつてまち／＼ですが一割七分しかくれてな  
か、たうでございます。それからこの法律が施  
行と同時に半年分だけはその療養の給付の  
総額の二割をくれると言明しておりまして  
今後ますます毎年療養の給付の二割が目標に  
なること、思ひます。



十八番鈴木市蔵君）ただいま課長さんの説明では  
 社会保障制度の生活保護を受ける方は三月経  
 ったところから除外される。その場合にもこの者  
 が病気にかゝった場合はどういう方法があるか。  
 保険課長（唐沢貞太郎君）三月経った場合は新法の  
 説明の時に申しましたのですが私の方から  
 よければおそらく現在の福祉事務所ですれ  
 以上ないかと思ひますがただし三月という  
 ことは条例を作れない。作ったからには元  
 の考え方と同じ、生活保護法の生活保護を  
 受ける人たちを私の方から抜かされるという  
 考えです。その他の保護を受けた方は今まで  
 と同様であります。

十九番鈴木市蔵君）この場合当然国でもって条例



というものをきめてきたんですがその場合に  
今あなのおっしゃった福祉課がこれに当る  
ということとは国は病気が発生した場合には  
その実はどうなりますか。

。保険課長(唐沢貞太郎君) 実は新法をとうろくと思っ  
たんですが新法を見ると当分何か不利になり  
そうなので元の条例をとることにしたんです  
が新法という考えはありませんでしたから  
その実をどう承願います。

。八番鈴木市藏君) そうでなくとも結構なんです  
がそういうようなことが議案としてもしも  
医療法にかゝる時には一応申込んでその場  
合にどういうことになりますか、貧乏人が  
もしも(雑音多く聴取不能)……以上でございま



す。

。保険課長(唐沢貞太郎君)今三月の問題ですがこれは旧法をとっている関係上三月というところを考え方は全然ないわけでした生活保護だけと私の方から除きその他の保護につきましては今まじと同じような考え方でそういうことはないとお思います。

。二番(望月暉作君)まっ課長は当分の間三十八年完全実施のこととさいつてありますすが市長としては条例を出す以上当分の間もと短かい当分の間と考えておられますが。その当分の間というのはい体完全実施しなければならぬ。そういうようなことで当分の間といっているのかどうか。新法によって行うとい



うことであるのか、これを伺へたい。

市長(田村利男君)実はまだ細則はできておりませ  
ん。政府の指定する意図がはつきりしていな  
いわけで従いまして暫定的になりました。細  
則ができて近いうちに報告がありますか  
ら……(笑声)……さし当り差しつかえないよ  
うにしたいと思えます。

○=養望月暉作君)当分の間という市長の答弁  
です。暫定的に条例としてもしきめな場  
合には旧法を行わなくともいい、というこ  
とでございします。これは結局資金が逆向  
すると考えております。なお相当の経費  
がかかるものと覚悟はしております。大  
体こういうような新法ができてこれに對



する経費などの位か、るかを試みしなことにあるかどうか、これをお伺いします。

。保険課長(唐沢貢太郎君)一般的につままして、私の方で調べたことがありますが新法でやるということになるかと非常に不えると思うのであります。どの位かというところと大体月と直しましては二百万円以上はか、るのじゃないかというふうに考えてあります。

なおその次の年度のようになりますと漸減していき一番初めの年度だけは多少か、ると思います。

なおその次はあくまでも新条例がひき出る間は暫定的な問題でございます。

。議長(石井潔君)他に質疑ございませんか。



議長(石井潔君)(夏議なしと呼ぶ者あり)  
夏議なしと認めます。

よ、て日程才五議案才一号は桑案通り決定  
へたしました。

しばらく休憩をいただきます。

休憩中日程第六の議案に関する経過につき  
まして当局から聞きたいと思ひますので休  
憩中に協議会に切りかえます。

三時十五分休憩  
三時五十分開議

議長(石井潔君)日程才六議案才二号を上程いたし  
ます。



(書記朗読)

議案才ニ号、釧路市役所庁舎建築設計及び監理監督に關する契約の締結について  
建設課長(新井重助君)議案才ニ号についてご説明  
申上げます。

市庁舎建築設計及び監理監督につきまして  
石本建設におまかせしたいと思ひます。  
契約方法は随意契約によつて行いたいと思ひます。  
それから石本建築事務所の経歴を概略申上げますと資本金が五百万円でございます。  
あるいは最近におきます  
建築ビルを申上げますと東京朝日新聞本社、白木屋百貨店の旧館本館の設計をいたしまして庁舎の方は最近五年間で十五やって



あり適当と思ひますので契約いたしました次才  
であります。

議長(石井潔君)これに対しては質疑ございませ  
んか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)は異議なしと認めます。

よって本才二号議案は原案通り決定いたし  
ます。

以上をもちまして本臨時会の議案全部を終  
了いたしました。長時間に渡りありがとうございました。

午後三時五十五分閉会



右今議の次第を録し、に署名す、

昭和三十四年一月二十三日

館山市議会議長

石井 潔

署名議員

小澤 恵太郎

同

中村 玄五

小澤 恵太郎



